

松嶋夜話 卷之下 22

〔原文〕天目國師曰

〔訓読〕天目國師曰く

〔原文〕昔馮給事有偈曰

〔訓読〕昔馮給事偈有りて曰く

〔原文〕公事之餘喜坐禪

〔訓読〕公事の餘、坐禪を喜ぶ

〔原文〕未嘗將脇到牀眠

〔訓読〕未だ嘗て脇を將て牀に到り眠らず

〔原文〕雖然現出宰官身

〔訓読〕然れども宰官の身現出すると雖も、

〔原文〕長老之名四海傳

〔訓読〕長老の名、四海に傳ふ

〔原文〕又李駙馬有偈曰

〔訓読〕又李駙馬偈有りて曰く

〔原文〕學道須是鐵漢

〔訓読〕學道は須らく是れ鐵漢なるべし

〔原文〕著手心頭便判

〔訓読〕手を心頭に著し便ち判す

〔原文〕直趣無上菩提

〔訓読〕直ちに無上の菩提に趣て

〔原文〕一切是非莫管

〔訓読〕一切の是非管する莫かれ

〔原文〕又龐居士曰

〔訓読〕又龐居士曰く

〔原文〕日用事無別

〔訓読〕日用の事、別無し

〔原文〕惟吾自偶諧

〔訓読〕惟だ吾れ自ら偶諧す

〔原文〕頭頭非取捨

〔訓読〕頭頭取捨に非ず

〔原文〕處處沒張乖

〔訓読〕處處張乖没す

〔原文〕朱紫誰爲號

〔訓読〕朱紫誰か號を爲す

〔原文〕丘山絶點埃

〔訓読〕丘山點埃を絶す

〔原文〕神通并妙用

〔訓読〕神通并に妙用す

〔原文〕運水及搬柴

〔訓読〕水を運び及(ま)た柴を搬ぶ

〔原文〕又張拙秀才曰

〔訓読〕又張拙秀才曰く

〔原文〕光明寂照遍河沙

〔訓読〕光明は寂照にして、河沙に遍し

〔原文〕凡聖含靈共我家

〔訓読〕凡聖含靈共に我が家

〔原文〕一念不生全體現

〔訓読〕一念生ぜず、全體現わす

〔原文〕六根纔動被雲遮

〔訓読〕六根纔に動もすれば、雲遮ぎらる

〔原文〕斷除煩惱重増病

〔訓読〕煩惱を斷除するも、重く病増す

〔原文〕趣向眞如亦是邪

〔訓読〕眞如に趣向するも、亦た是れ邪

〔原文〕随順世間無罣礙

〔訓読〕世間に随順し、罣礙無し

〔原文〕涅槃生死等空華

〔訓読〕涅槃、生死、空華に等し

〔原文〕又趙清獻公有偈曰

〔訓読〕又趙清獻公に偈有りて曰く

〔原文〕默坐公堂虚隠几

〔訓読〕公堂に默坐して、虚しく几に隱る

〔原文〕心源不動湛如水

〔訓読〕心源動かず、湛として水の如し

〔原文〕一聲霹靂頂門開

〔訓読〕一聲の霹靂、頂門に開く

〔原文〕喚起從前自家底

〔訓読〕從前の自家の底を喚起し

〔原文〕如上士大夫皆是不離功名富貴游戲大圓場

〔訓読〕如上の士大夫、皆功名富貴を離れず、大圓場に游戲す

〔原文〕豈古人獨能而今人獨不能耶

〔訓読〕豈に古人獨り能くして、今人獨り能くせずや

〔原文〕惟在信之深行之力

〔訓読〕惟信の深行の力(つとむ)るに在りて、

〔原文〕則古今可以一致

〔訓読〕則ち古今以て一致なるべし

〔原文〕更或躊躇此乃自畫之耳

〔訓読〕更に或いは躊躇せば、此れ乃ち自ら之を畫くとするのみと

〔原文〕愚謂此是昔年中峯舉許多前修策於時之士大夫

〔訓読〕愚謂く、此れは是れ昔年中峯許多（おお）くの前修を擧げて、時の士大夫を策ます

〔原文〕今日所余道者士大夫即且置

〔訓読〕今日余が道ふ所の者は、士大夫は即ち且く置く

〔原文〕爲只我叢林下禪定中僧侶擧之

〔訓読〕只我が叢林の下、禪定中の僧侶の爲に之を擧ぐ

〔原文〕且道今日工夫修行如彼馮給事

〔訓読〕且く道へ、今日の工夫修行は彼の馮給事の如く

〔原文〕有未嘗將脇到牀眠底耶

〔訓読〕未だ嘗て脇を將て牀に到りて眠らざるに底有りや

※「底」がよくわかりません

〔原文〕又如李駙馬有直趣無上菩提底耶

〔訓読〕又李駙馬の如く、直ちに無上の菩提に趣く底有りや

※「底」がよくわかりません

〔原文〕又如龐翁

〔訓読〕又龐翁が如く

〔原文〕有頭頭非取捨處處沒張乖底耶

〔訓読〕頭頭取捨に非ず、處處張乖沒き底有りや

※「底」がよくわかりません

〔原文〕又如拙秀才

〔訓読〕又拙秀才の如く

〔原文〕有随順世間無罣礙底耶

〔訓読〕世間に随順し罣礙無き底有りや

※「底」がよくわかりません

〔原文〕又如趙清獻

〔訓読〕又趙清獻の如く

〔原文〕有心源不動湛如水底境致耶

〔訓読〕心源動せず、湛として水の如き底の境致有りや

〔原文〕曰儻夫不然恐爲士大夫見役

〔訓読〕曰く、儻し夫れ然らずんば、恐らく士大夫の爲に役せられて

〔原文〕且執鞭而已

〔訓読〕且つ鞭を執るのみ

〔原文〕他時異日有何面目

〔訓読〕他時、異日何の面目有りて

〔原文〕入泉下見於彼等乎也今日苟可汗顔

〔訓読〕泉下に入りて彼等に見えんや、今日苟（まこ）とに顔に汗すべし